

**鳥羽のお宝 再発見!**

教育委員会生涯学習課

☎ 25 1268

vol.48

「九鬼家だけではない! 鳥羽藩の基礎を築いた内藤家」  
西念寺の内藤家歴代の墓所

鳥羽四丁目の西念寺の墓所には鳥羽藩主内藤氏の墓があります。

内藤氏は寛永10(1633)年に九鬼氏の後を受け、鳥羽藩主になりました。

藩主となった忠重は鳥羽城の整備を行い、藤之郷に船倉



内藤氏墓所



内藤家の家紋の下がり藤

をこしらえ、日本丸を改造した大竜丸を繋留したほか、城内にあった西念寺を現在の場所に移し菩提寺にしました。

以降、忠政、忠勝と3代に渡り続きましたが、延宝8(1680)年に忠勝が、江戸芝の増上寺において、刀傷事件を起こし、その責任をとるため、切腹し、家は断絶となつてしまいました。

なお、この事件の21年後の

元禄14(1701)年に「忠臣蔵」で有名な江戸城松の廊下での刀傷事件がありました。この時、吉良上野介に刃向った浅野内匠頭長矩はみなさんご存じかと思えます。実は彼の母親は内藤忠勝の実姉であり、浅野内匠頭にとって忠勝は叔父にあたり、同様の事件を起こしているという事実は興味深く、何かしらの因縁を感じずにはいられません。

現在、西念寺にある墓所には忠政の墓などが建っています。

九鬼氏に隠れがちですが、鳥羽藩の歴史の中で重要な時期にあたる内藤氏について、調査の進展が期待されます。

イコール  
パートナー  
シップ

Vol.110

「居場所」と「出番」

市民課人権・生活係  
☎ 25 1126

2月に行った男女共同参画研修会において、わたしたち一人ひとりが輝くためには「居場所」と「出番」が必要であり、職場や地域社会などの公式の場において女性が参画できる体制が必要であるといった話がありました。確かに、人類の約半数は女性です。その女性の力を活かすことが出来ないということは、もったいないことですし、意志決定の場において、女性の声が聞こえないということからは、ニーズを十分に反映できていないと言えるのではないのでしょうか。

現在、企業のなかには女性職員でチームを作っている所もあり、女性ならではの感性を活かした商品の企画やアイデアでヒット商品が生まれるなどしています。

また、経済産業省は、東

京証券取引所と共同で、女性活躍推進に優れた上場企業「なでしこ銘柄」を選定しました。なでしこ銘柄は、東証一部上場企業の中から、業種ごとに女性が働き続けるための環境整備を含め、女性人材の活用を積極的に進めている企業であり「多様な人材を活かすマネジメント能力」や「環境変化への適応力」があるという点で、「成長力のある企業」であるとも考えられます。

三重県においても「男女がいきいきと働いている企業」を認定し、表彰や優れた取組事例の紹介などを行っています。これらのように、鳥羽市においても地域社会やいろいろな場面で男性・女性関わらず、一人ひとりの「居場所」と「出番」を作り出し、さらに輝くまちづくりを目指しています。